

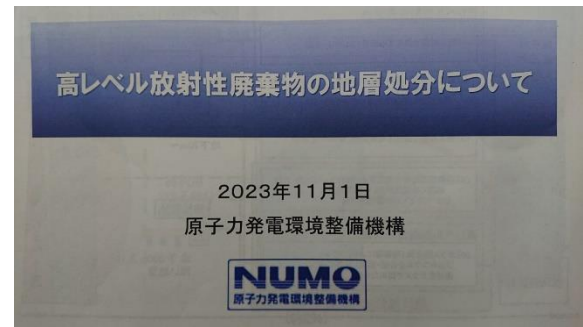
□ 地層処分事業の理解に向けた学習会（2023年11月1日／東京／参加者10名）

## 講座について

講師：富森 卓氏

（原子力発電環境整備機構）

題目：高レベル放射性廃棄物の地層処分について



内容：

- ① 放射性廃棄物の種類と処分方法について、特にガラス固化体の製造方法について
- ② 国内外の貯蔵の状況について&その背景について
- ③ 日本における地層処分の取組についての基本的な考え方について
- ④ その方法、安全性、またその目標と方策について  
特にガラス固化／鋼鉄製オーバーパック／ベントナイト緩衝材について
- ⑤ 地層処分の地理的条件と処分地の選定過程について、特に地域との共生について

Q & A： 以下に一部を紹介します。

Q: 原子燃料のリサイクル（再処理）についての現状と課題について教えてください。

A: 今まで出てきた課題も解決し、現状では、90%程度までは進捗しています。2024年度には完成をする方向であると、発表があったと承知しています。

Q: 諸外国との技術交流、処分方法の海外委託について、再度教えてください。

A: 技術については、諸外国とも共有しています。海外委託処分については、それぞれの国内で処分しているため、考慮してはおりません。

Q: このような設備を国内何か所必要なのか？

A: 青森県六ヶ所村にて地上保管（一時貯蔵）としているものと今後の推定発生本数合計40,000本以上を埋設出来る施設を考える。

Q: 六ヶ所村にて埋設施設を作れば解決出来るのでは？

A: 地上保管までは受け入れるが最終処分地（深地層埋設処分）として受け入れることは出来ない（国と県、六ヶ所村との約束）。

Q: 説明資料に、現世代の責任として、地層処分に向けた取組を推進（同時に可逆性と回収可能性を担保）とありますが、将来の科学技術の研究によって方針転換の可能性はありますか？

A: 新しい方法が出来れば可能性はあります。また、研究をしていかなくてははいけません。もちろん研究しています。

Q: 40,000本の地層処分のためには、土地の面積はどれくらいになるのでしょうか？

A: 分かり易く表現すれば、地下施設は約3km×3kmの広さ、羽田空港の一つくらいの面積です。

Q: 高レベル放射性廃棄物貯蔵センター（六ヶ所）の中で人が立つことができる場所では、足元には、コンクリート製の床があるのですね。

A: 厚さ2mのコンクリートの床で施工されています。放射線の線量は基準以下になっています。

Q: ウランはどこから輸入していますか？

A: カナダやオーストラリアです。

Q: 人が居るところで作ろうとするから民主主義により進まないと思います。無人の島を利用できませんか？

A: 島といっても行政が絡んでくるのでむずかしいのではと思います。

受講風景



参加者（1名はリモートで参加）